

ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンは 4月1日から接種を再開しました

現在、ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンは接種を中止していましたが、平成23年3月24日に医薬品等安全対策部会安全対策調査会及び子宮頸がん等ワクチン予防接種後、副反応検討会を経て接種再開になりました。検討会の内容は下記のとおりです。

報告された7例については、現段階の情報において、いずれもワクチン接種との直接的な明確な因果関係は認められないと考えられる。なお、例えば重い先天性の心疾患などの重篤な基礎疾患を有する患者は、その状態によっては、十分な注意が必要である。

同時接種について

厚生労働省の調査（866医療機関から回答）によると、平成23年2月の1か月間では、小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの接種のうち、何らかのワクチンとの同時接種が約75%以上を占めている。製造販売業者の国内での市販後調査／臨床試験・鹿児島大学の調査で、現時点までの国内での基礎疾患を有する患者に対する接種実績等からみても、特に安全性上の懸念は報告されていない。

小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの同時接種における副反応の発現率は、単独接種に比べて高い傾向があるとする報告もあるが、重篤な副反応の増加は認められておらず、特に安全性上の懸念は認められない。

今後の対応について

現時点では、小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの接種と死亡例との間に、直接的な明確な死亡との因果関係は認められないと考えられる。なお、両ワクチンの同時接種に関する情報等からは、安全性上の懸念はないと考えられる。そのうえで、小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの使用に際して、慎重を期して、下記の事項に留意することが適当である。

- ① 小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンにおいて、同時接種は、その必要性を医師が判断し、保護者の同意を得て実施する。
- ② 重篤な基礎疾患、例えば重篤な心疾患のある乳幼児は、単独接種も考慮しつつ、同時接種が必要な場合には医師の判断により実施する。
- ③ 死亡報告数が増加した場合は、因果関係の有無に関わらず、専門家による調査会等の評価を行い、対応を速やかに検討する。

以上により、**4月1日から接種を再開することになりました**。しかし、各医療機関で接種の再開日がいつになるかわからない状態です。接種を希望する医療機関に電話等でご確認下さい。よろしく申し上げます。

なお、詳しい情報については厚生労働省ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

URL = <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000167mx-img/2r985200000167oe.pdf>

問合せ先：保健福祉課衛生チーム 0994-22-3044